

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-2-1
売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 水産課水産しまね振興室長 安木 茂 電話番号 0852-22-5740

事務事業の名称	水産業競争力強化漁船導入促進事業	
目的	(1) 対象	漁業者
	(2) 意図	漁業の収益性を大幅に改善することで構造改革を進め持続可能な漁業への転換を図る。
事業概要	国の水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業に本事業による県単繰り越し補助を行うことにより、漁業の構造改革に取り組む漁業者のリース料負担を軽減し、高性能漁船の導入を促して収益性の改善を図る。 ※H29年度に終了した「浜田地域水産業構造改革推進事業」の成果参考指標は、本事業内で評価を行う。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	漁船リース事業による高性能漁船への更新隻数	目標値			7.0	14.0	21.0	隻
	式・定義	高性能漁船への累積更新隻数	取組目標値						
			実績値			4.0			
			達成率	-	-	57.2	-	-	%
2	指標名	基幹漁業年間生産額	目標値	135.4	136.8	138.2	139.6	141.0	億円
	式・定義	基幹漁業（中型まき網漁業、沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業、定置網漁業）生産金額	取組目標値						
			実績値	139.0	131.2	134.7			
			達成率	102.7	96.0	97.5	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	15,000	70,000
うち一般財源 (千円)	15,000	70,000

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

本県の漁船の85%が船齢20年を超え、高船齢化が進行しており、このまま漁船の更新が進まなければ、漁業は存続の危機に陥る。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・11経営体が交付決定済み（国事業）。
- ・うち漁船4隻の建造が完了。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

漁船の老朽化、高船齢化が進行し、このまま漁船の更新が進まなければ、漁業は存続の危機に陥る。

②困っている状況が発生している「原因」

漁業者が減船をはじめとする資源管理等の身を切る取組を行っているにもかかわらず、燃油価格の高止まりや国民生活様態の変化に起因する魚価の低迷といった厳しい外部環境に置かれてきたため、十分に収益性を確保できず、漁船の更新に必要な内部留保ができなかったため。

③原因を解消するための「課題」

国事業の活用や県等の支援により、高性能漁船導入の促進。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・これまで国は補正予算で予算措置をしており、今後の状況は不透明であるが、国の予算状況や事業の採択状況を見極めて本事業を効率的に実施し、収益性の改善による漁業の構造改革を重点的に進める。
- ・また、本事業を効率的に進めていくためにリース事業体に対して事務手続きについて説明を行い、円滑な事業活用の促進を図る。